森林レンジャーがゆく（115）

春来たらば草自ずから生ず

「あきる野の自然を学び自然のために活動したい」という思いを持った小学校４、５年生の仲間が集まる森の子コレンジャー活動も今年度で11期となりました。

コロナ禍前は、自然を調査するだけではなく、調査を通して自然と人の関わりについて学び、活動で得た事を生かしてビオトープ整備を実施していました。ビオトープとは、地域の野生生物が生息する空間のことです。

コレンジャー活動では、両生類や昆虫類の産卵する水場が減少していることを受けて、むかし谷津田だった所を池として再生し、多様な野生動物が利用する植物の種類を増やすために、周辺の林床を一部整備してきました。自然のために何かしたいという思いを持った仲間が最も生き生きするビオトープ整備。昨年の11月は同窓会で小学校５年生から高校３年生までの懐かしい仲間と、12月には現役のコレンジャーと２年ぶりに実施することができました。同窓会では、何も言わなくても先輩が後輩の手助けをしていたり、レンジャーの補佐をしてくれました。そして、誰からともなくお互い「ありがとう」と声を掛け合って協力している姿がありました。現役の活動では、ビオトープ整備がやりたくてコレンジャーに入った仲間がいたり、ドロドロになる池掘りの作業がこれまでにない程の人気だったりと頼もしい姿がありました。

９年目となるビオトープでは、両生類や昆虫類だけではなく小型哺乳類、鳥類、猛禽類等の野生動物が利用していることが分かっており、池を中心とした多様な命のつながりが育まれています。大雨や台風などの影響で毎年整備が必要ですが、人が関わることで守られる多様性のためには、やっておしまいではなく、見守って工夫して直していくことが大切であると、仲間と共に実感しています。そして、ビオトープの現状を知った仲間の嬉しそうな顔や楽しそうに協力している姿を見ていると、自然のためのビオトープは、私たちにとっても大切な場所になっているのだと感じています。

そろそろ、私たちのビオトープは、繁殖期を迎えた両生類で賑わいます。仲間の活躍を祈りながら春の訪れを待つ今日この頃です。

（加瀬澤）

同窓会の参加者